

疾風に勁草を知る

樋野興夫著

いい覚悟で生きるより

逆風にさらされているときほど、
その人の真の強さ、弱さが見えてきます。

なぜ、私ばかりがこんなに苦しむのでしょうか、と嘆く患者さんに対して、私がよく言う言葉に「疾風に勁草を知る」があります。意味をつかみかねている人には、「苦勞は買ってでもしなさい、という言葉があるでしょう。同じような意味ですよ」とつけ加えます。

「風激しくて勁草を知る」とも言いますが、「後漢書王霸伝」にある言葉です。

強い風が吹いてみて、初めて強い草が見分けられるように、厳しい試練に遭って初めて意志や節操の堅固な人間であることがわかる、という意味です。

後漢書と言いますから、古く 5 世紀の書物ですが、時代を超えて、今に生きる故事です。

さきごろでは気象現象として、突然、竜巻に襲われるニュースが増えましたが、まさにこの言葉が重みを持って迫ってきます。人生にも、突然の強風や竜巻が襲ってくることはないとは言えません。

がんという病気の発症もそうでしょう。事業の倒産、事故や災害との遭遇もあるかもしれません。

そのときこそ、あなたの真の強さがためされるのではないのでしょうか。逆に言えば、「人生楽ばかり」で来た人は、真の幸せも希望も知らないで終わるのではないかと私は思います。逆境の日々があるから、それまでは感じもしなかった些細なことに希望も生まれるし、知る喜びもある。患者さんやその家族と面談してきて、数えきれないほどそう感じるがあります。

病気を抱えている、いないにかかわらず、現実とは苦しいものです。強い気持ちで生きていくことは決して生やさしいものではありません。たいていの人は自分の弱さに翻弄されることがあって当然でしょう。だからこそ、現実の中にその人なりの、人間としての理想が問われるのです。理想とは、自分の役割や使命感だと思ってください。

しかしまた、理想を求めることは口で言うほど簡単なことではありません。それ自体、苦しいことです。けれども、理想を求め続けていけば、それは必ず喜びにつながるはずです。

私の考える喜びとは、「ハピネス (happiness)」ではなく、「ジョイフル (joyful)」です。より深い、湧いてくる喜びです。もしかすると、この喜びのために疾風は吹いたのかもしれない。そう思えたならば、それは、真の強さに ほかなりません。

苦しみの中にあっても、喜びのために懸命に生きている人との出会いに、私自身が慰められていることに気がつきます。

